

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 鉱工業生産指数(2011年3月)
～過去最大の落ち込み～

発表日2011年4月28日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
09	1-3月	▲20.0	▲34.6	▲19.0	▲33.5	▲8.8	▲5.2	21.2	52.5	▲18.9	▲32.7	▲18.4	▲28.9
	4-6月	6.5	▲27.4	5.0	▲27.3	▲3.9	▲10.3	▲8.8	34.5	▲13.1	▲41.4	8.9	▲20.7
	7-9月	5.3	▲19.4	5.8	▲18.8	▲1.8	▲12.1	▲8.9	13.1	0.6	▲34.4	4.5	▲13.7
	10-12月	5.9	▲4.3	5.9	▲3.3	▲1.5	▲14.6	▲7.7	▲8.7	4.9	▲21.4	4.9	▲0.2
10	1-3月	7.4	28.0	7.5	26.9	1.5	▲6.1	▲7.3	▲28.9	14.4	6.4	3.8	23.4
	4-6月	0.7	21.3	0.7	21.7	2.6	1.2	0.2	▲22.1	4.7	29.1	0.1	13.5
	7-9月	▲1.0	14.0	▲0.8	14.4	0.4	3.5	2.1	▲12.9	4.1	30.8	1.2	12.0
	10-12月	▲0.1	5.9	▲0.3	6.4	▲0.6	3.8	2.1	▲2.8	1.2	23.9	▲1.2	4.0
10	1月	3.4	18.2	4.0	19.6	1.0	▲12.2	▲1.8	▲27.3	5.4	▲7.1	▲0.4	15.5
	2月	1.7	33.1	1.7	30.0	1.6	▲7.4	▲0.6	▲29.9	9.2	11.1	2.9	26.8
	3月	0.1	32.4	0.6	30.4	▲1.0	▲6.1	▲3.7	▲29.7	0.4	12.3	1.1	26.8
	4月	0.6	27.0	0.6	27.3	0.6	▲3.5	1.5	▲25.7	1.4	29.1	▲0.7	21.4
	5月	▲0.1	20.7	▲1.2	21.0	1.4	▲0.9	2.4	▲22.8	▲3.0	23.6	▲1.4	10.3
	6月	▲1.5	16.6	▲0.1	17.6	0.6	1.2	▲0.6	▲17.1	6.6	33.7	0.2	9.9
	7月	0.3	14.6	0.0	14.7	▲0.2	1.3	2.0	▲14.5	1.0	34.7	0.9	10.6
	8月	▲0.1	15.5	▲0.3	15.8	0.4	2.5	▲0.9	▲13.9	▲1.0	30.4	0.8	13.3
	9月	▲0.8	12.1	▲0.2	12.9	0.2	3.5	1.0	▲10.0	1.6	28.1	0.3	12.2
	10月	▲1.4	5.0	▲2.4	4.4	▲0.5	3.9	7.2	▲0.7	1.1	28.0	▲2.8	2.5
	11月	1.6	7.0	2.9	8.7	▲1.7	2.0	▲7.7	▲6.3	▲1.3	24.0	1.9	6.8
	12月	2.4	5.9	1.3	5.9	1.6	3.8	0.0	▲1.6	0.8	20.7	▲0.2	2.6
11	1月	0.0	4.6	▲0.8	3.2	3.9	7.0	▲0.1	▲0.1	▲3.0	16.4	▲4.6	▲0.6
	2月	1.8	2.9	3.3	3.6	1.5	6.9	▲3.3	▲2.8	8.2	12.9	4.1	▲0.7
	3月	▲15.3	▲12.9	▲14.3	▲11.8	▲4.3	3.4	4.0	4.9	▲13.8	▲3.0	▲17.4	▲18.8
	4月	3.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	5月	2.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)4、5月は、製造工業生産予測調査の数値

○ 過去最大の落ち込みに

経済産業省より発表された2011年3月の鉱工業生産は前月比▲15.3%（2月：同+1.8%）と、過去最大の落ち込みとなった（市場予想：▲10.6%、当社予想：▲12.5%）。被災地における生産設備毀損やサプライチェーンの寸断、電力不足などにより大きく押し下げられている。特にサプライチェーン寸断の影響が大きかったようだ。業種別に見ても、軒並み大幅な落ち込みとなっているが、特に輸送機械では前月比▲46.4%と大打撃を受けており、ほぼ半減している。この結果、1-3月期の鉱工業生産は前期比▲2.0%と、3四半期連続の低下となった。

○ 4、5月は上昇計画だが、不確実性大

同時に公表された製造工業生産予測調査は、4月が前月比+3.9%、5月が同+2.7%だった。水準は極めて低いとはいえ、早期の底打ちが見込まれていることは好材料である。4月については一般機械、輸送機械、電気機械が増産、その他の業種が減産を見込むなど斑模様だが、5月には大半の業種で前月比上昇が予想されている。

なお、生産予測調査の集計期間が4月10日までである点には注意が必要である。サプライチェーン復旧に関する状況は日々変化しているため、果たしてどの程度計画が実現するかについては不確実性が非常に大きい。4月の生産は上振れ下振れどちらも考えられ、予測指数から大きく乖離する可能性もあるだろう。

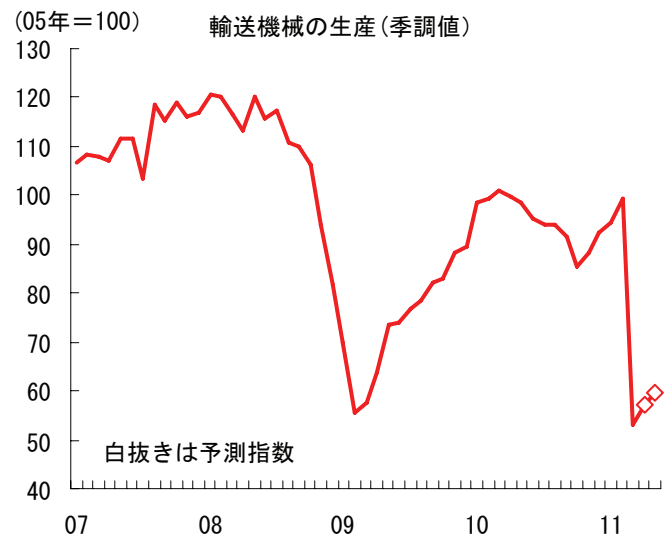
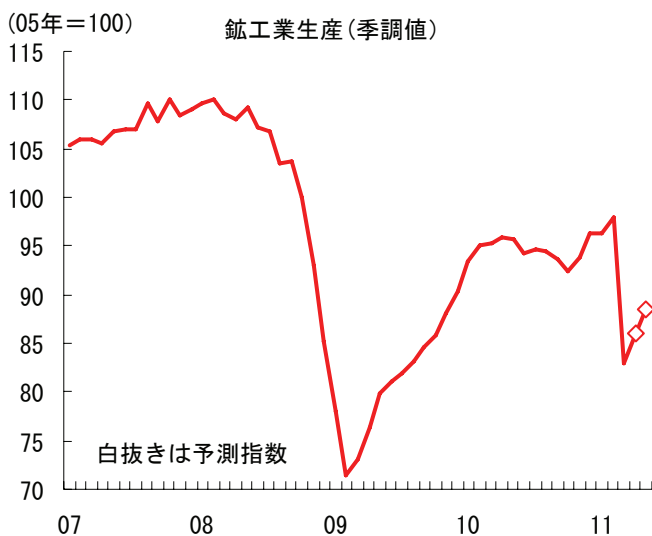
また、自動車については、工場の操業再開が4月中旬までずれ込んだことに加え、その後の稼働率も通常の5割程度にとどまっている模様である。輸送機械の予測指数は4月に前月比+7.6%（5月：同+4.1%）となっているが、下振れの可能性が高いと考えられる。鉱工業生産全体でも、4月の予測指数についてはある程度割り引いて見た方が良いのではないだろうか。

なお、仮に4、5月が予測指数通りの上昇になったと仮定しても、4-5月平均の水準は1-3月期を5.4%ポイント下回る。4-6月期の生産は1-3月期以上の減産になると予想される。

○ サプライチェーン復旧は進んでいるが、悪影響は秋頃まで残存か

経済産業省は4月26日に「東日本大震災後の産業実態緊急調査」、「サプライチェーンへの影響調査」を公表した（調査期間：4月8日～4月15日）。これによると、被災地の生産拠点については製造業のうち64%が既に復旧済みであり、夏までに90%が復旧見込みとのことである。また、調達困難な原材料、部品・部材の代替調達先についても、加工業種の8割、素材業種の6割強で確保しつつあるとされている。もっとも、一部代替調達先が見つからない原材料、部品・部材を使用している企業が、加工業種の5割、素材業種の1割存在する。また、原材料、部品・部材の十分な調達量が確保できる時期については、素材業種では「7月まで」とした企業が54%となっており、「10月まで」とした企業を合わせると85%になる。一方、加工業種では、「7月まで」が29%、「10月まで」が71%であり、素材業種に比べて影響が長引く見通しとなっている。復旧は徐々に進んでいる模様ではあるが、悪影響は秋頃までは残存する可能性が高そうだ。

サプライチェーン寸断問題の解消がすぐには見込めないことに加え、夏には電力不足による制約も予想される。3～4月をボトムとして、鉱工業生産が方向として上向いていくことは確かだろうが、震災前の水準を回復するには時間がかかりそうだ。



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」、「製造工業生産予測調査」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。